

配合飼料価格の動向について

令和3（2021）年1月

（1）配合飼料関連価格の現状

ア とうもろこし価格は 420 セント/ブッシェル台 で推移

（シカゴ定期）

- 9月上旬には 360 セント/ブッシェル台であったが、作付期を迎えた南米産地での高温乾燥および中国向けを始めとした米国産とうもろこしへの旺盛な輸出需要により上昇を続け、現在は 420 セント/ブッシェル台となっている。
- 今後は、引き続き中国向けに旺盛な輸出需要が見込まれることや、南米産地の天候不安により、相場は堅調に推移するものと見込まれる。

イ 大豆粕価格は 420 ドル/トン台 で推移（シカゴ定期）

- 9月上旬には 350 ドル/トン台であったが、米国産地での高温乾燥による作柄悪化や、中国による旺盛な需要を背景に米国産大豆の輸出数量が増加したことから 10 月には 400 ドル/トン前後まで急騰した。その後も、生育期に入った南米産地での高温乾燥による生育悪化を背景に上昇が続き、現在は 420 ドル/トン前後となっている。
- シカゴ定期が上昇していることに加え、国内の搾油需要が低迷しており発生量が減少していることから、大幅な値上がりが見込まれる。

ウ 海上運賃は 45 ドル/トン前後 で推移

- 8月上旬には 45 ドル/トン前後で推移していたが、米国の穀物輸送需要が堅調なことで、一時 50 ドル/トン台まで上昇した。しかし、その後は南米積み穀物輸送需要や中国向けの石炭輸送需要が一段落したことから、現在は 45 ドル/トン前後で推移している。
- 引き続き堅調な穀物輸送需要が予想されることから、底堅く推移するものと見込まれる。

R2.12	現状	今後
とうもろこし		
大豆粕		
海上運賃		
為替相場	104円前後	

（2）配合飼料価格の動向

令和2年度第4四半期の農家購入価格は前期比+3,900 円/t（全農価格）

※参考：2020年12月18日付け JA 全農プレスリリース「令和3年1～3月期の配合飼料供給価格について」

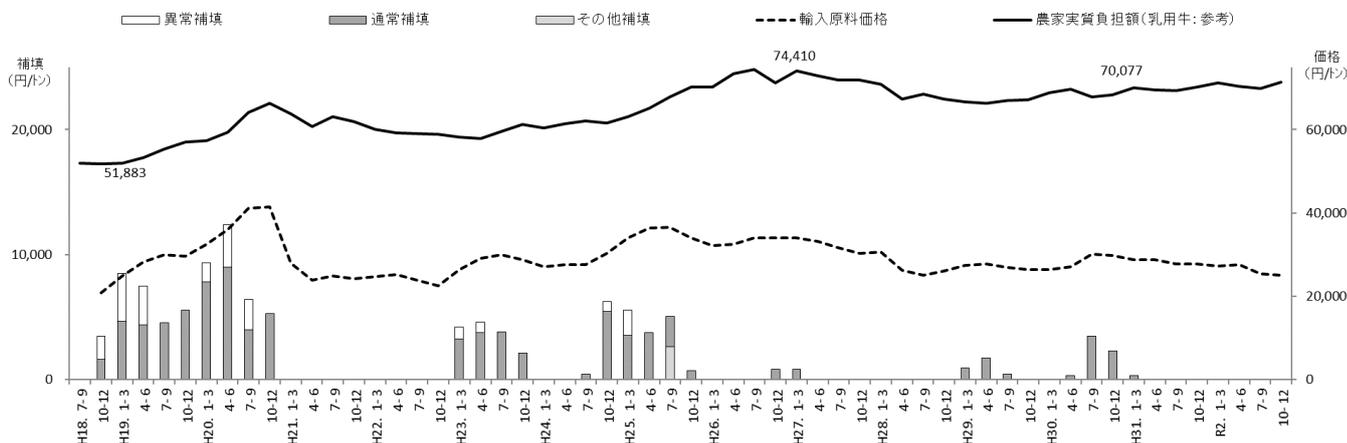
（3）配合飼料価格安定制度と補てん金の動向について

項目	時期	(円/t)																
		平成18年度		平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度		
		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III			
輸入原料価格	7~9月	26,427	26,463	27,157	30,202	29,854	28,748	28,712	27,839	27,788	27,281	27,655	25,349	25,078				
直前四半期との差		▲413	36	694	3,045	▲348	▲1,106	▲36	▲873	▲51	▲507	374	▲2,306	▲271				
補填金		0	0	300	3,450	2,300	300	0	0	0	0	0	0	0				
うち通常補填		0	0	300	3,450	2,300	300	0	0	0	0	0	0	0				
異常補填		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
国特別交付金																		
メーカー負担																		
農家購入価格※1		51,883	67,133	68,853	70,077	71,377	70,737	70,377	69,610	69,423	70,270	71,280	70,413	69,837	71,393			
農家実質負担額※2		51,883	67,133	68,853	69,777	67,927	68,437	70,077	69,610	69,423	70,270	71,280	70,413	69,837	71,393			

※1：農林水産省「農作物価指数（配合飼料 全国平均価格：乳用牛飼育用）」より四半期平均（斜体表示は全農改定額による予測）

※2：農家購入価格－補填金

輸入原料価格の推移と補填の実施状況



※配合飼料価格安定制度：輸入原料価格が直近1ヵ年平均を上回った場合、補填金を交付